

クラブ員募集



留萌消防組合では少年消防クラブ員の募集しております。
対象年齢は小学校1年生から中学校3年生までの男女です。
現在、留萌・小平・鬼鹿合わせ約100名程のクラブ員がおり、防火や救急に対する知識を学んでいるほか、施設見学や宿泊研修など多くの活動があります。
今年の施設見学では、旭山動物園や旭川市科学館へ行き交流を深め、3年に1度の宿泊研修では幌加内町朱鞠内ふれあいの家「まどか」に宿泊し、オリエンテーリングや真つ暗やみ避難体験、消火訓練なども行いました。
皆さまも少年消防クラブにぜひ入会して一緒に消防に関する知識を深めませんか？
入会費・年会費は無料となっております。

- #### 地震が発生したら・・・
- ①自分の身を守る為に、机やテーブルの下に隠れたり、座布団や布団などで頭を保護しましょう。
 - ②ドアや窓が変形し室内に閉じ込められる場合があるので、身を守りながらドアや窓を開け逃げ道を確認しましょう。
 - ③火を使用していた場合、消してから避難しましょう。また、電気のブレーカーを切って避難すると、なお安全です。
 - ④揺れが収まっても油断せず、安全な場所に避難しテレビやラジオで正確な情報を入手しましょう。



BFC 少年消防クラブ

家庭での地震対策

- #### 地震が起きる前に・・・
- ①家具類の転倒・落下の防止措置をしましょう。
 - ②非常用品を備えておきましょう。
 - ③消火の備えをしておきましょう。
 - ④家族で地震が発生した際の対応を話し合っておきましょう。
 - ⑤地域の危険性を把握しておきましょう。
 - ⑥日ごろから防災に対する行動力を高めるおきましょう。



灯油タンクやガスボンベの管理をお願いします

冬期は積雪や屋根からの落雪により屋外灯油タンクやプロパンガスボンベが破損し漏油やガス漏れの危険性が高くなります。
定期的に点検や周辺の除雪を行うなど適切な管理をお願いします。



●紙面に対するお問い合わせ先●
留萌消防組合
留萌消防署 予防課 予防係
電話 42-2211
FAX 43-5153

消防団員 募集中



古い消火器は使わないで下さい。

秋の火災予防運動 10月15日～10月31日

《全国统一標語》
『消したはず 決めつけしないで もう一度』
《留萌消防組合テーマ》
『火災から 生命を 守ろう』

午後8時サイレン吹鳴

秋の火災予防運動が実施されます

10月15日(土)から10月31日(月)までの間、『消したはず 決めつけしないで もう一度』を統一標語に秋の火災予防運動が実施されます。
これからの季節、暖房器具を使用する機会がとて多くなります。火気の取扱には十分注意し、日ごろから火の用心を心がけましょう。
留萌消防組合では火災予防運動期間中、火災防ぎよ訓練、住宅防火展巡回広報などさまざまな活動を通じ皆さまに火災予防への呼びかけを行ってまいります。
火災防ぎよ訓練や住宅防火展に一度足を運んでいただき、皆さまも火災予防について考えてみてはいかがでしょうか？



第49号

住宅用火災警報器の設置はお済みですか？

皆さまのご自宅にはもう住宅用火災警報器の設置はお済みでしょうか？
消防法の改正により平成23年6月1日から全ての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務づけられました。設置しなければならぬ場所は寝室です。ただし、2階に寝室がある場合は、階段室にも設置が必要となります。
大切な生命や財産を火災から守るために必ず設置しましょう。
また、市では住宅用火災警報器の設置状況を把握するため、緊急雇用創出推進事業を活用し11月30日(水)まで訪問調査を実施しています。調査員が各家庭を戸別に訪問し、玄関先で聞き取りによる調査を行います。
訪問時に不在の場合は郵便受けなどに資料と留守宅用連絡票を投函させていただきます。再訪問時に不在の場合は、戸別調査票も投函させていただきます。後日電話か同封の封筒での回答をお願いいたします。調査の際はぜひご協力ください。
※調査員が住居内に立ち入ることや、販売、斡旋を行うことは絶対にありません。悪質な訪問販売などには十分注意してください。

戸別訪問調査実施中



全国各地で住宅用火災警報器の奏功事例が数多く報告されています

事例① 寝室のベッドでタバコを吸っていたところ、火種が落下したのに気付かずそのまま就寝。その後、煙が発生し、設置していた住宅用火災警報器が作動。警報音に気づき本人が消火し火災に至らなかった事例です。



事例② 1階居間に設置されていた、ストーブより出火。2階寝室で就寝中、階段室に設置していた住宅用火災警報器が鳴動、警報音に気づいた家人が消火し火災に至らなかった事例です。



事例③ ストーブの上に干していた洗濯物がストーブ上に落下し発火。台所に設置していた住宅用火災警報器の鳴動に気づき、就寝中の家族全員が避難することができた事例です。



住宅用火災警報器を設置しましょう。